

五ヶ瀬川かわまちづくりの取り組みとストック効果について

延岡河川国道事務所 調査第一課 ◎小野 富生
甲斐 英明
○吉武 敬介

1. 五ヶ瀬川かわまちづくりについて

1. 1. 概要と目的

延岡市は、市街地の中心部を五ヶ瀬川、大瀬川が貫流し、五ヶ瀬川に合流する祝子川、北川など幾筋もの川が流れる街並みは「水郷のべおか」と称されている。五ヶ瀬川と大瀬川に囲まれた中心市街部の川中地区には、300年以上もの歴史を誇る「鮎やな（写真－1）」をはじめ、貴重な治水施設である「畳堤（写真－2）」、水害被害の防止を願った「水神様」が各所に奉られているなど、川にまつわる貴重な歴史資源が数多く存在している。

また、延岡市では「アスリートタウンのべおか・スポーツ振興計画」「延岡市観光振興ビジョン」等の関連事業において、五ヶ瀬川の散策路を活かしたスポーツ振興や鮎やなの存続、観光振興への取り組みを進めている。さらに、地域住民も、延岡アースデイによる河川美化活動のほか、五ヶ瀬川イカダ下り大会、リバーフェスタのべおか（写真－3）などが開催され、川と人とのふれあいを大切にする機運が高くなっている。

それを後押しするように、東九州自動車道の北九州～宮崎間の全線開通による観光・流通などの活性化が大いに期待され、五ヶ瀬川を外部にPRできる魅力・資源と連携したまちづくり・かわづくりが求められている。

このような中、五ヶ瀬川の「かわまちづくり計画」は、延岡市、関係機関、地域住民等との緊密な連携を図り、延岡市の“まちづくり”と五ヶ瀬川の“かわづくり”が一体となった“かわまちづくり”として、具体的に整備や利活用・維持管理を計画・実践していくことによって、地域の自立的・持続的な活性化及び治水上・河川利用上の安全性向上に貢献することを目的に取り組んでいる。



写真－1 鮎やな



写真－2 畳堤



写真－3 リバーフェスタ

1. 2. 検討経緯

平成24年10月に地域住民、学識者、延岡市、宮崎県、国土交通省の連携のもと、「五ヶ瀬川かわまちづくり検討会」が設立し検討を進め、整備や利活用の方針を詠った「五ヶ瀬川かわまちづくり計画書」を策定し、平成25年3月に「かわまちづくり支援制度」に申請登録された。

同年5月には、延岡に多数ある“かわ・まち”に関係する団体が互いに協力し、強固な組織づくりを目指し、五ヶ瀬川かわまちづくりの実践組織となる「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」を設立し、イベントへの参画・協力等の実践活動を行いながら、より具体的な整備・利活用・維持管理等の取り組みを検討し、平成26年9月に「アクションプラン」を策定した。

1. 3, 3つの部会

平成24年度の「五ヶ瀬川かわまちづくり検討会」にて、“延岡の街の魅力と五ヶ瀬川の魅力をつなぐ”をコンセプトに、各活動団体が得意分野に別れ、また新たなメンバーも加え3つの部会を組織し、取り組みを進めている。

(1)「回遊できる散策路」部会

五ヶ瀬川・大瀬川に挟まれる川中地区の自然と歴史を感じる周遊可能なコースを整備

(2)「文化・自然活動ゾーン」部会

五ヶ瀬川大橋上流付近の自然環境の保全を図りつつ、活動拠点となる水辺空間の創出

(3)「自然の恵み体験拠点」部会

大瀬大橋下流付近で自然の恵みを味わい、自然体験活動拠点として利活用



図-1 対象拠点位置図

1. 4, これまでの主な利活用と整備

(1) 回遊できる散策路部会 (マラソン大会の開催)

管理用通路を散策路として安全に利用するための整備を進め、かつて「若鮎マラソン」として開催されていたマラソン大会の復活を目標にマラソン練習会を実践している。



写真-4 マラソン練習会



写真-5 整備した管理用通路

(2) 文化・自然活動ゾーン部会（川遊び村の開催、延岡花物語への参画）

子供が五ヶ瀬川に親しむために、子供を持つ親とともに川に親しみ川の楽しさ・安全を知ってもらうため、文化・自然活動ゾーン部会により“新たな取り組み”を実施しており、今年度で3回目の実施となっている。また、五ヶ瀬川沿いで行われ、延岡市民主体の観光イベントとして発展している「延岡花物語」に参画している。



写真-6, 7 お父さんとお母さんのための川遊び村

写真-8 延岡花物語

(3) 自然の恵み体験拠点部会（大貫かわまち交流広場の整備）

300年以上の歴史を誇る「鮎やな」が設置される大瀬川において観光利用促進とともに、オフシーズンにもレクリエーション、散策や新たな活動に利用できる等、日常利用の促進を目指し整備した。整備に当たっては沿川住民、漁協、観光協会、延岡市等からなる「大貫水辺プロジェクト」を組織しプランの立案及び維持管理について検討をおこなった。



写真-9 鮎やなと大貫かわまち交流広場

その他にも五ヶ瀬川では年間を通じ、様々な場所で多くのイベントが行われている。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
年間イベント	延岡花物語(このはなウォーク)		延岡このはなマラソン練習会 「花」のイベント 延岡アースデイ	カヌーツーリング			川遊び村 五ヶ瀬川リレーマラソン大会 五ヶ瀬川イカダ下り大会 リバーフェスタのべおか				延岡水郷鮎やな 壘堤かわまち灯り	
維持管理	草刈り 200人		草刈り 3,000人			草刈り	草刈り 橋の日	草刈り(壘堤)		草刈り	草刈り(壘堤)	

図-2 年間スケジュール

2, 五ヶ瀬川かわまちづくりストック効果

2. 1, ストック効果検討

(1) ストック効果の評価方法

五ヶ瀬川かわまちづくりにおける評価方法は、「観光客数」や「河川利用者」の増加等の直接的な整備効果に加え、これまで評価されていない、かわまちづくりに関わる人々の連携による地域活性化等の間接的な効果も期待できると考え検討を行った。

(2) 評価指標と調査方法

評価のための指標は、「河川利用者の増加」、「観光客数の増加」の定量的な調査と、“かわまちづくりに関わる人材の連携”と必ずしも定量的に把握できない項目もあり、定性的な項目についても指標とし調査を実施した。ヒアリングについては、「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会メンバー」の協力を得て行った。評価指標の調査実施概要を以下に示す。

表－1 「五ヶ瀬川かわまちづくり」評価指標および調査方法

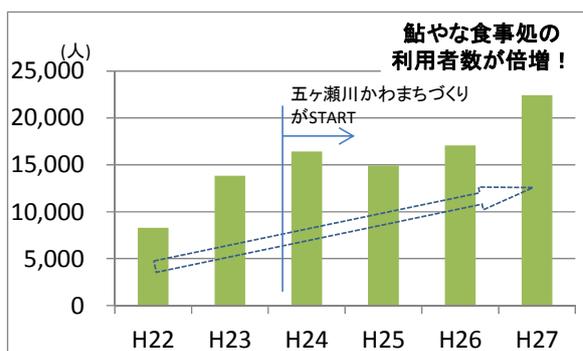
まちづくり効果の指標	指標の評価方法	具体的な調査方法
観光客数の増加	観光客数の推移把握	観光入込客数の収集
河川利用者数の増加	河川利用者数の推移把握	河川利用実態調査結果の経年比較
かわまちづくりに関わる人材の連携	創ろう会委員の活動活性化	関係団体へのヒアリング

2. 2, ストック効果評価結果

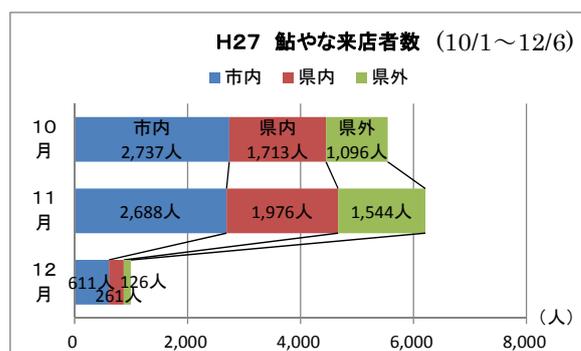
(1) 観光客数の増加

① 鮎やな食事処・交流館の利用者数

かわまち交流館（鮎やな食事処）の来訪者数を調査し、平成 27 年の鮎やな時期の交流館の利用者数は 22,447 人となり、延岡市が目標とする 2 万人を達成した。また、平成 27 年は、来訪者の約 47%が延岡市内、約 31%がその他県内、約 22%が県外からの来訪者であった。また、「かわまち交流館」は、鮎やな期間以外でも非営利の活動中心に様々な団体から利用されており、これまでに延べ 1,000 人を超える市民に利用されている。その他、整備後は小学校による環境学習・清掃や中学校のロードレース大会等の利用など、日常利用される機会が増加しつつある。



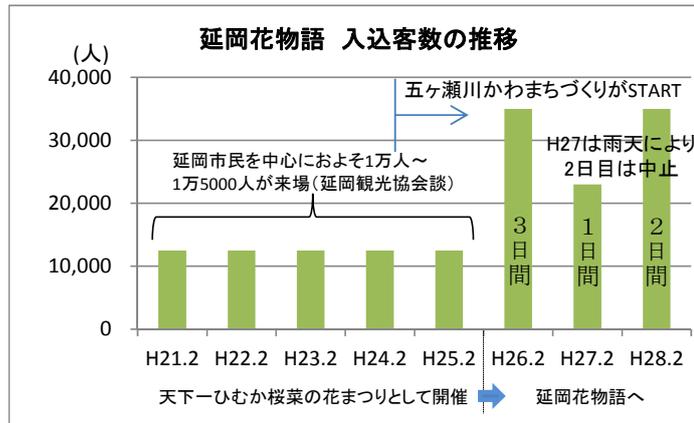
図－3 利用者数（延岡観光協会調べ）



図－4 来店者の内訳（延岡観光協会調べ）

②延岡花物語の入込客数

延岡花物語の入込客数については、延岡観光協会に対しヒアリング調査することで状況を把握した。



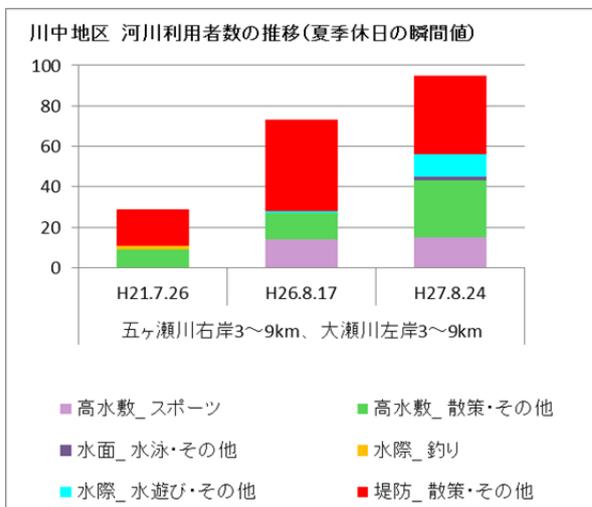
図－5 延岡花物語 入込客数の推移 (延岡観光協会調べ)

平成27年度では、鮎やな(約22,000人集客)、延岡花物語(約35,000人集客)である。「五ヶ瀬川かわまちづくり」の取り組みが始まって以来、東九州道の開通の相乗効果も含め、いずれの取り組みも好調に来訪者・参加者数を伸ばしており、これらを踏まえると目標とした「川とまちの魅力向上による観光客の増加」は、現時点では少なからず寄与できているものと考えられる。

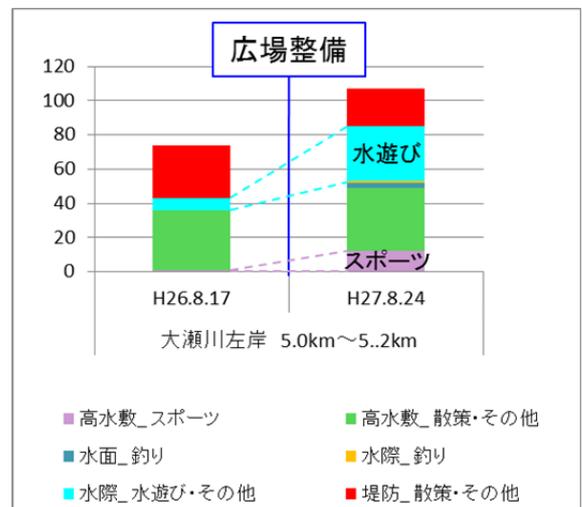
(2) 河川利用者数の増加

河川空間利用実態調査により、「五ヶ瀬川かわまちづくり」に取り組み始めたH24年度以降は五ヶ瀬川・大瀬川の川中地区全体の日常利用者数が大幅に増加している(夏季休日)。さらに、各所の整備を行ったH27年度も利用者が増加し、特に「水遊び」「高水敷の散策」利用で大きな増加がみられ、着実に「地域住民の河川利用の増加」が図られている。

なかでも高水敷(河川敷)の散策利用者数がH27年はH26年比で倍増しており、朝夕のジョギング・ウォーキングコース、通勤・通学コース等、市民の日常生活での利用頻度が高まっている。広場整備により安全に水際に近づけるようになったため、夏場は「水遊び」の利用者数が大幅に増加した。



図－6 河川利用者数の推移



図－7 交流広場の利用者数の推移

(3) かわまちづくりに関わる人材の連携

五ヶ瀬川かわまちづくりを通して、これまで「川遊び村」、「まちなかカヌーツーリング（写真－10）」、「マラソン練習会」等、新たな利活用のイベントを立ち上げ実践してきた。また、延岡を代表する五ヶ瀬川でのイベント「延岡花物語」は、五ヶ瀬川かわまちづくりと関連して既存の祭典が、さらに大規模かつ広範囲に発展したものである。このほか、これまで実施してきた拠点整備や現在進められている豊堤散策路の整備は、魅力ある「まちづくり」の構成要素となる歴史的・景観的魅力の向上に寄与しており、直接的ではないものの間接的に観光客の増加を後押ししているものと考えられる。

このように団体間の横のつながりが生まれ、天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会（写真－11、12）を軸とした団体間の共助により定着されるようになっており、住民の連携が促進されるという効果は大きいと言える。



写真－10 カヌーツーリング 写真－11, 12 天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会

3. まとめ

今回の検討では、現時点での五ヶ瀬川かわまちづくりにより、観光客や河川利用者数の増加という効果に寄与できたという結果が得られた。また、現在、「天下一五ヶ瀬川かわまち創ろう会」を通して、住民主導で新たな利活用のイベントを立ち上げ継続実践するなど、住民の連携が促進している状況にある。

今後も観光客数や河川利用者数の増加などの効果を高めていくために、かわまちづくりに関わる人材の連携をより強めるとともに、人材を育成し次世代まで継続してストック効果を発現していくことが重要であると考えられる。

4. おわりに

今回の検討により、五ヶ瀬川かわまちづくりの「まちづくり効果」に直接的・間接的に寄与できているものと考えられる。今後も引き続き、五ヶ瀬川かわまちづくりのストック効果を評価しながら、関係機関と連携し取り組んでいきたいと考えている。